神奈川・横浜の土地のつくりと変化をさぐるシリーズ　全５巻

24-318

流れる水で神奈川県をつくろう

～横浜の土地のつくりシリーズ　④～　　（20 分）

土地と地層が流水のはたらきでできること

神奈川県や横浜市の地形が身近な川を中心とした流れる水のはたらきでできてきたことを調べる。川を中心とした流れる水の働きが土地を変化させてきたことに気付き、郷土の身近な地形と、身近な川との関係についての興味・関心と考えをもつことができるようにする。

（2002 年作）

砂場いっぱいに大きな神奈川県立体模型をつくりだしていく。

流丹沢山地の中央部の道志川は巨大な谷を彫り込んでいる。

相模湾に流れ込んだ大量の砂が河口や海岸に広く堆積していく。

流水の働きで、相模原や多摩丘陵など、実際の地形に近い神奈川県ができていく。

24-313

大地を変える火山噴火

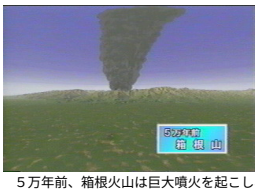
～横浜の土地のつくりシリーズ　③～　　（20 分）

火山により土地が変化すること

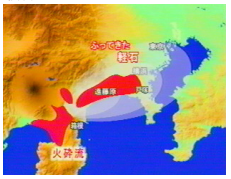
箱根山・富士山が過去に大噴火を繰り返し、横浜の土地を作ってきたことを検証する。事実に即して ,火山活動と郷土の土地の変化についての考えをもつことができるようにする。

（2001 年作）

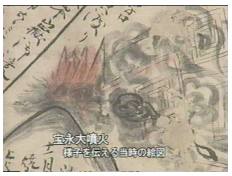
箱根山は５０万年にわたって活動を続け横浜の土地をつくってきた。



５万年前、箱根火山は巨大噴火を起こし横浜にも多量の軽石を降らせた。



５万年前の箱根火山の大火砕流は、横浜市戸塚区にも達した。



1707 年の宝永の富士山宝永の大噴火を見た当時の人が残したスケッチ。

24-301

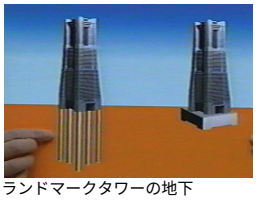
地 層 の 広 が り

～横浜の土地のつくりシリーズ②～　　（20 分）

地層が層になって広がっていること・化石

郷土・横浜の土地のつくりが，広い範囲にわたる何層かの「地層の広がり」でとらえられることに気づくことを通して，興味・関心を喚起し，土地のつくりと変化のきまりを調べる見方・考え方を育てる。

（2000 年作）


ランドマークタワーの地下
正解はどちらでしょう？（正解＝右）
そしてそのわけは？

「ボーリング資料」の見方を解説。
急に硬くなるところが「上総層群」だ

帷子川をはさんで、左右の地層はよく似ている。

横浜の地下には，灰色の硬い地層「上総層群」がある。

24-288

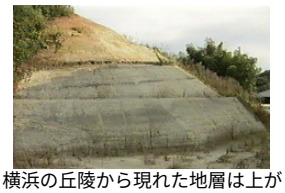
いきている大地　（20 分）

～横浜の土地のつくりシリーズ①～

地震や火山による土地の変化（総論）

横浜の台地や丘陵からは多くの場合、貝化石が出てくる。また、その上には「赤土」が分厚い層をなしている。なぜ山の上に貝化石があるのか？「赤土」とは何なのか？郷土、横浜・神奈川の土地のつくりを地震や火山噴火との関係から考える。（シリーズの総論的な内容です）

（1999 年作）


横浜の丘陵から現れた地層は上が赤茶色、下が灰色。それはなぜ？

横浜の「山」の上から貝化石がでてくるのはなぜ？

三浦半島城ケ島の岩場は関東大震災で１メートル以上も隆起した。横浜の中心部は60cm隆起。

横浜の西方にある箱根火山と富士山は噴火を繰り返して横浜に火山灰を降り積もらせた。